

謹賀新年



圓福寺報

圓福寺報 第四十五号
 平成十八年一月一日発行
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺
 千葉市稲毛区穴川町三七五 TEL(五二)九一八一
 E-mail: enpukuji@come.bnet.co.jp
 http://www.bnet.co.jp/enpukuji/

目次	頁
年頭法話	
「小さな菩提心」	2
第九回四国あるき遍路の旅	5
幼稚園創立五十周年記念事業	8
お寺の情報公開ページ その十四	
「お寺にまつわる間違い漢字」	10
第22回花園会ゴルフ大会報告	11
平成十八年年間行事案内	12
「写経会」「ご詠歌」「土曜会」案内	13
——参加者募集中	
お寺と和尚の日録抄	14
平成十八年 年回表	15
第十回四国あるき遍路のご案内	15
編集後記	15
圓福寺新年会のご案内	16

※表紙は、星久喜町 吉田
 和子さんの作品です。

年頭法話

「小さな菩提心」

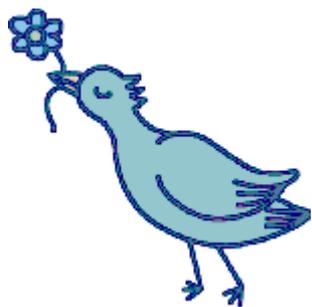
ぼだいしん



あけましておめでとうござい
ます。

お正月には松竹梅の縁起物がつ
きもので、玄関にも素性のよい竹
を使った門松をしつらえたりしま
す。

四国の山の中の遍路道を歩く
と、手入れの行き届いた竹林もあ
りますが、ほとんどは荒れ放題の
密林状態の竹林が目につきます。
枯れて倒れた竹があったりしま



す。そんな竹
林を見て、竹
が擦れて火事
が起きたとい
うお経の話に
も納得がいき
ました。

◆ 鳩の火消し

昔ヒマラヤ山にたくさんの木が
茂っておりました。その中には竹
林もあったそうです。ある日、台
風がおこり竹と竹とすれ合い、火
を吹いて山火事となりました。鳥
や獣達はわれ先にと急いで逃げま
した。ところが、その中の一羽の
鳩が、「さあ大変 今迄永年お世
話になった森が大火事になってい
る。なんとかして消さなければ火
はだんだん大きく広がってしま
う。」と思ったそうです。鳩が高
く舞い上がり、まわりを見ると向
こうに湖が見えた。一目散に飛ん
でいて自分の体の水につけ全身
びしょぬれになって山火事の上に

舞い戻って羽をパタパタさせてし
ずくを落とし、また湖に行っては
返って火を消そうと懸命に行っ
り来たり、十回、二十回、三十
回・・・、そのうち翼の羽はぬ
け、遂に力尽きて山麓に落ちてし
まいました。

それをじっと見ていた帝釈天が
鳩の前に現われ「鳩さん鳩さん、
あなたのような小さな体であの大
火事を消そうとしても無駄ではな
いかな。それよりほかの仲間のよ
うに逃げた方が賢いのではないか
な」と。すると鳩は「いいえ自分
のような小さな力でも一所懸命に
なって消そうと努力すればいつか
は消せます。自分の力が足りなく
て消さ
れなく
ても生
まれか
わり死





予の国も
例外では
なく、伊
予松山藩
の農民作
兵衛さん
もこの飢
饉の為に

にかわりしてでも火を消そうと決心しています」と答えると、帝釈天は心より感動し大雨を降らして山火事を消してくれたそうです。この鳩の何とかしてという心。自らのことよりまわりの事を考える心を仏教では「菩提心」といいます。

◆ 作兵衛さんの一斗の麦

江戸時代に享保の大飢饉というのがあったそうです。米も麦もさつま芋も取れず、全国で多くの餓死者が出ました。昨秋で歩き終わった伊予の国も例外ではなく、伊予松山藩の農民作兵衛さんもこの飢饉の為に父と長男を亡くしたといわれるほどひどい不作だったそうです。作兵衛さんはお粥腹で田へ出てふらつきながらも末の娘を背に耕やしていましたが、飢えと疲れで倒れてしまいました。近所の人々が家にかつぎ込んで何か食べる物はなにかと納屋へ入ると、麦が袋に一斗しまわれてありました。「作兵衛さん、この麦を食べて元氣を出せ。」と近所の人が出そうとすると、作兵衛さんは「この一斗の麦は絶対に手をつけたくない。今家族の者が食べたところで十日しかもたない。この麦は大地に蒔く、そして穂が出てたくさんの麦となる。自分は農民、多くの人々に食べてもらうのがわが任務だ。たとえ餓死してもこの麦は大地に蒔きたい。」と。残念ながら、その後亡くなった作兵衛さんの腕の中に、一斗の麦がすっかり

と抱きかかえられてあったといいます。昔の伊予郡の松崎というところには、作兵衛さんを神様としておまつりしてある神社もあるそうです。拝殿に額が掛けてあり、麦を枕に横になった絵が画かれてあるといえます。

この作兵衛さんのお話は、新潟の「米百俵」にも似たものですが、目先の利益を見ずに、まわりのこと、そして何年も先の多くの人の利益をという命がけの「菩提心」は、飢饉と無縁の時代でも心がけなければいけないことでしょう。

とかく、自分ひとりだけの力では・・・とか、自分は力がないか





ここで、落ちないように埋めてやろうと思うのですが、雪がいつぱい

らとってごまかしていないでしようか。小さな鳩でも、山火事に立ち向かう勇気を持っているのですから・・・。

◆ **雪を担って古井を埋む**

昨年来、大寒波に見舞われ、豪雪のニュースも毎日飛び込んで来ますが、「雪を担って古井を埋む」という私の好きなことばがあります。

夏の間、古井戸は目に見えていないので、間違って落ちる人もまじらないでしょう。冬になって雪がたくさん積もると、どこに古井戸があったのかさえわからなくなり、間違って落ちる人もいるかもしれない。そこで、落ちないように埋めてやろうと思うのですが、雪がいつぱい



で土を掘り起こして井戸を埋めるわけにもいきません。そこで、目の前の雪を井戸に放り込んで埋めようとするわけです。ところが、古井戸といっても、底のほうには地下水があつて、雪を入ると溶けてしまいます。それでも、どんどん雪を入れます。温かい地下水で雪は溶けます。いつになっても古井戸が埋まるはずはありません。ところが、その作業をしていることで、歩く人はここに古井戸があるんだとわかり、間違つて人が落ちないようにしようという最初の願いは達成できるのです。はたから見れば、雪で井戸を埋めようなんてばかげたことと思われるでしょう。それでも、間

で土を掘り起こして井戸を埋めるわけにもいきません。そこで、目の前の雪を井戸に放り込んで埋めようとするわけです。ところが、古井戸といっても、底のほうには地下水があつて、雪を入ると溶けてしまいます。それでも、どんどん雪を入れます。温かい地下水で雪は溶けます。いつになっても古井戸が埋まるはずはありません。ところが、その作業をしていることで、歩く人はここに古井戸があるんだとわかり、間違つて人が落ちないようにしようという最初の願いは達成できるのです。はたから見れば、雪で井戸を埋めようなんてばかげたことと思われるでしょう。それでも、間



一人ひとりの小さな力が求められる時代です。

違つて古井戸に人が落ちないようにと、「菩提心」

「菩提心」が強ければ、鳩が山火事に羽のしずくを落とすように「菩提心」は行いに表れるはずでず。

一人の小さな力で構いません、菩提心をしつかり持てば、今日から行いを変えていけるはずでず。地球温暖化、幼児虐待、建築関係の偽装事件、ゴミ問題、少子高齢化・・・さまざまな問題に私たち



第九回四国あるき遍路の旅



平成十七年十一月二十五日～二十七日

■平坦な一日目

菩提の道場「伊予」の国もいよいよ最後となりました。松山駅から電車に乗って、伊予小松に向かう途中、前回渡った踏み切りや乗車した駅など思い出され、今年の春のことなのに懐かしさを感じました。

伊予小松駅を右に行けば、すぐに六十二番札所宝寿寺です。そして、六十二番宝寿寺から六十三番吉祥寺へは、国道十一号に沿って歩くことになりました。途中のコンビニでおにぎりを買い込み、次の吉祥寺の境内でお昼を取ることにしました。天気もよく、外で食べるのができましたが、雨だったらどうしたのでしょうか。お天気に感謝感謝。

昼食後、国道をそれて旧道の遍路道を六十四番前神寺に向かうことにしました。遍路道から大きな鳥居が見えてくると、「石鎚神社」です。ここは、明治初年まで前神寺だったところで、神仏分離令によって石鎚神社となったそうです。神社をお参りし、明治半ばに再興された前神寺に向かいました。

修験道総本山の風情が本堂前の火渡りの使う焚き火のあとにありました。

大師堂の左側のイチョウの黄葉が



鮮やかでした。イチョウの下を下ると二分ほどで今日の宿「湯の谷温泉」です。地域の社交場のような温泉でしたが、泉質は道後温泉をしのぐほどのよい温泉でした。明日の横峰寺を控えて湯に入り、英気を養いながら、早々に床に入ることにしました。

■難所、横峰寺

今日はいよいよ横峰寺への参拝の日です。早朝、まだ暗い中を、福田さんは昼食のおにぎりを買いにコンビニまで行ってくれました。

朝食を済ませ、温泉前のバス停から七時二十二分の一日本線のバスに乗り、横峰寺入り口の「大頭」まで行きます。「大頭」バス停からは正規の遍路道です。石鎚の山懐に向かう道中のあちらこちらで昨年の台風被害の復旧工事がされていました。

徐々に勾配がきつくなり、車道が百





生活道路ではない分、復旧はまだまだ先のようです。遍路道なのに、鉄筋コンクリートの橋を掛けたり、階段を作ったり、それも一人一人が通るには過ぎるぐらい幅を取っていたり、果たしてそこまで整備する必要があるのか考えさせられました。大自然の前では、人が歩く遍路道さえ、自然破壊に違いありません。そんな人災に近いがけ崩れ現場もあったような気がします。観光客を呼ぶこと、土木工事をして地元経済を活性化させること、本当に必要なかどうか考えなくてはいけないと、その恩恵にあずかりながらも思いました。

二十数年ぶりの横峰寺の仁王門のたずまいは変わっていませんでした。

八十度カーブすると、横峰寺への山道の入り口でした。溪谷沿いに上る遍路道は、台風の被害で橋が流されたり、倒木がそのままだったり、



変わったのは、私の体型とハーハーいう息づかいぐらいでしょうか。ようやく、横峰寺に到着です。

前回お参りの予定が台風のため登って来れなく、今回も危ぶまれた札所です。本当にようやく来れましたという感じでした。仁王門の先のもみじが見事な色で迎えてくれたようです。すでに寒い季節で、団体遍路は居らず、静かな境内に私たちの般若心経が響き渡り、なんとも言えず爽快な気分でした。

お参りを終え、早めの昼食を取ることにしました。おにぎりをほおばっているうちに、山中の冷気が体をつつみ、大汗が冷え始め、晩秋の山寺に在ることを実感しました。長居はできずに、出発予定を繰り上げて山を下りることにしました。

横峰寺から

香園寺までの遍路道は、別名「遍路ころがし」といわれるところで、山麓の札所めがけて一気に下っています。

香園寺奥の院を経て、あるき遍路道は高鴨神社の石段を下りて、香園寺本堂の真後ろに出ます。神社の正面に立ちはだかるようなビルが、香園寺の本堂・大師堂です。左から回り込むと正面に出て、その巨大な建物の全容に驚かされます。

参拝者は、映画館のようなイスに坐ってお参りするようになっています。座席数約千ぐらいあるでしょうか。正面の本尊様は、ステージ上に安置されている感じですが。大きな声で般若心経を詠むと、本堂（というよりホール）中に響き渡りました。

今日は香園寺の宿坊でお世話になります。

■伊予最後の札所、三角寺

翌朝の朝食は朝六時からとることができ、珍しく朝は余裕が



ありました。ところが、朝起きると窓の外は小雨模様。夜中には雷も鳴っていたというではありませんか。予報ではこの三日間は天気もちそうだったのに、今回もカッパのお世話にならないければいけないようです。朝七時半に、カッパや傘などそれぞれに雨の身支度をして出発です。香園寺を出たときは雨が残っていましたが、伊予小松の駅に着く頃にはあがってしまいました。

伊予小松駅から伊予三島駅まで電車で約一時間。今日の歩きはここからとなり。今回は横峰寺が難所とは言っていたのも



の、この三角寺も結構な登りが待ち受けていました。休憩をした戸川公園から三角寺までは、約四キロの登りでした。山中に入る前は、伊予三島の工場の煙突や、瀬戸内の海が眺められてのどかな感じでしたが、いざ山に入ると意外と険しい場所もあり、菩提の道場を終えるのも大変でした。

車組と合流して、菩提の道場、伊予最後の般若心経を詠みました。このお寺は、山桜が有名だそうです。「これこそ、登りがいいあり、山桜」という一茶の句碑が本堂前にあります。紅葉が盛りでしたので、「それでこそ、登りがいいあり、山紅葉」と、詠んでおきましょう。

お参りを済ませ、いつものように境内でコンビニのおにぎりの昼食となりました。今回の昼食は三食とも、札所でのおにぎりとなってしまいました。一回ぐらい暖かいものかと思いましたが、残念ながらそんな場所は皆無でした。でも、立ち寄った店に何もなくて、お菓子だけの昼ごはんだったこともあったのですから、それに比べたらありがたいものです。次回からは讃岐



の国ですので、うまいうどんでも食べられるのではと期待していただきます。

今回の帰路は、三島・川之江インターから高速バスに乗り、高知に出ると、高知空港から羽田に戻るルートでした。松山に電車で戻るより運賃も安いし、時間も短いのです。

バス停に着くと、出発まで1時間ほどの待ち時間がありました。女性陣は待合所で談笑にふけり、男性陣はバス停前の芝生に寝転がって休憩です。いざとなると女性の方が底力があることがよくわかる光景でした。

今日の出発のときの雨がうそのような青空が広がり、芝生の心地よさと思わずうとうと。「これでこそ、歩きがあり、秋の空」でした。

四国もあと一県を残すだけになったなどという感慨が湧いてきました。同時に、残りは香川しかないのかというさびしさも起きて来ました。

穴川花園幼稚園五十周年記念事業

新園舎完成!

創立五十周年記念事業の中心である新園舎建築も、八月一日の上棟式から四ヶ月余りの月日を要して、ようやく完成の運びとなりました。

例年はないほどの酷暑だったり、卒園する子どもたちにも新しい園舎での生活をさせたいとのことで工期にも厳しい制限があったりする中、土日やお盆休みもなく工事が進められました。おかげさまで大過なく工事を終えることができました。

幼稚園では、二学期の終業式を終えるや、あわただしく引越し作業をし、年末には荷物の搬入も終わりました。

一月の三学期始業式からは新園舎での保育が始められ、園児たちのにぎやかな声が境内に戻って参ります。

工事期間中は、お寺の行事も休止したり、お参りの際にはご迷惑ご不便をおかけしたり致しましたが、檀信徒の皆様のご温かいご理解とご協力をいただき、無事完成することができました。こころより感謝申し上げます。

学校法人 千葉花園学園



創立五十周年記念事業では、新園舎建築以外に、五十周年記念誌の発刊、記念DVDの制作発行、愛唱歌「あいさつとうた」「はなぞのかぞえうた」の制作とCD発行なども完成間近になっています。二月十八日には、在園児だけでなく、たくさんの方々の卒園された方々もお招きして、幼稚園の五十歳の誕生日をお祝いしたいと考えております。



のの様のステンドグラス

玄関右側の窓には、のの様のステンドグラスがはめ込まれます。園舎のシンボルになることでしょう。（ステンドグラス作家：西城善済）

2月18日の落慶式にて開眼供養をして、取り付けます。

あいさつのうた

作詞 宮田 格

あいうえおはよう ございます
 かきくけこんこん こんにちは
 さしすせそろって いただきます
 げんきなこえで 「おはようございます」
 にっこりえがおで 「こんにちはは」
 こころをこめてあいさつしようよ
 たすつとともだす あまほうよ
 なにぬわののさま ありがとう



大ホール

二階には大きな遊戯室が設けられ、可動式舞台を収納すれば室内でもダイナミックな遊びを展開できます。

舞台を出せば、各種園行事に対応でき、たくさんのお客さんもお招きできます。

玄関ホール

入り口や壁面に曲線を使用し、やさしく温かみがあります。正面にはおしゃか様を安置し、子どもたちを見守ってくださいます。

床は、保育室や二階廊下と同じく三重張りの木製フローリングになっていますので、どこが子どもたちの遊び場になっても大丈夫です。



保育室

日々の保育に即した収納は壁面に効率的に組み込まれています。室内の色調も、木のぬくもりが感じられるようにまとめられています。気持ちも落ち着きそうです。

◆お願い◆・・・檀信徒の方々、またお知り合いの方で、穴川花園幼稚園を卒園されたにもかかわらずご招待状が届いていない方がいらしたら、お寺までお知らせいただければ幸いです。

お寺の情報公開ページ その十四

お寺にまつわる間違い漢字

お寺に関しては、日ごろ使わない字を使ったり書いたりすることから、間違った字を使ったりすることが多々あります。お手紙やお布施などの字でよくある間違いを拾ってみました。

一、お寺の名前は正しく

正↓圓福寺

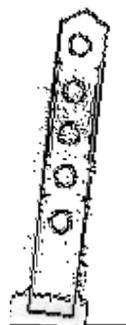
誤↓園福寺

圓福寺の「えん」の字は、「円」の旧字体で「圓」と書きます。よくある間違いは、「園」と書くこと。幼稚園をやっているから「園」と考えたり、「花園会」があるから「園」の字が思い浮かんだりするのでしょう。お寺の名前は正しく書きましょう。また、円福寺でも構いません。

二、当て字「卒塔婆」

正↓塔婆

誤↓搭婆

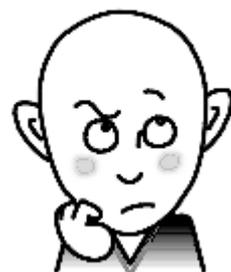


お塔婆代の包み紙に「搭婆」は間違いです。とうばの「とう」は、手偏ではなく土偏です。塔婆の語源は、仏塔をあらわす「ストウパー」。それに当て字をしたものですから、漢字はなんでもよいことになりましたが、意味からすると土偏の「塔」ということになると思います。ちなみに手偏の「搭」は、のせるとかつけるという意味。

三、「お膳料」???

正↓お膳料

誤↓お膳料



ご法事するとき、ご丁寧にお膳料を包まれる方もいらっしゃると思います。お膳で食事をすることは日常ではなくありません。それで書かれるときに間違ってしまうのでしょうか。糸偏だと繕うことになりま。痛んでいる衣や本堂を繕ってくださいという意味でしたらそれでもいいのですが・・・。

ついでに、「御霊前」「御仏前」

お寺だから香典袋に包めば間違いないだろうとお考えになるのでしょうか。御霊前も御仏前も、亡くなった方にお供えするものです。お寺へは「お布施」が正しいです。ちなみに、「御霊前」は四十九日まで使い、四十九日の忌明け以後は「御仏前」を使います。





第22回 花園会ゴルフ大会



【京葉カントリー
クラブ、十月二十日】

天高く、スポーツの秋にふさわしい秋晴れの中、第二十二回の大会が開催されました。日程変更のために、参加者は十九名と少な目でした。そのうち、初参加四名、新しい顔ぶれとも和気藹々の楽しい大会でした。会場も千葉市内ということ、朝の時間もゆとりがあり、その分プレーに専念できる条件だったのですが・・・。

今回から三回ほどは、ハンディの見直しのため、新ペリア

	氏 名	グロス	ハンディ	ネット
優 勝	小山 稔	89	14.4	74.6
準優勝	福田 雅男	101	26.4	74.6
3	三浦 正	93	18	75
4	遠藤 幸男	98	22.8	75.2
5	加藤 正義	92	16.8	75.2

※ ベストアップ賞		該当なし	
ベストグロス		小山 稔	89
ドラコン	矢野 弘明	ニアピン	
	福田 雅男		
	矢野 弘明		
福田 雅男	宮田 宗格		
バーディ賞		宮田 宗格	

方式でのプレーとなり、スコアは終わってみてのお楽しみ。それでも、実力者が上位を占めました。優勝は、幹事を務める小山さん。賞品の手配や会場との折衝をしながらの好スコアはさすがでした。準優勝の福田さんは、新ペリアのつばにはまり、その恩恵を十分にいただいたようです。幼稚園の設

計で苦勞したご褒美かもしれません。

幼稚園の工事などで忙しい住職は、ブービーとなりましたが、ニアピンやバーディを取るなど、練習をしない割りには楽しいゴルフを展開し、賞品にも恵まれたようです。

今回、女性の参加者はお一人だったため、女子の部は設けませんでした。が、幹事さんの配慮で賞品だけは盛りだくさんでした。次回、たくさんの女性の参加をお待ちしています。

なお、参加者には、池ポチャ・三パットなどの罰金が課せられており、集まった罰金はすべて天災などの被災地への義援金として、寄付させていただきました。

※ベストアップ賞

前回スコアより、一番多くスコアを縮めた人に贈られる花園会オリジナルの賞です。

平成十八年 年間行事予定表

1月

【一月一日〜三日】
元朝まいり・新年修正会
仏教興隆・国家安泰・五穀豊穰・檀信徒各家の繁栄などを祈禱する法要をしています。
この修正会で祈禱した「般若札」は、寺報・カレンダーなどと一緒に、みなさまにお届けいたします。

【一月二十二日】
花園会新年会
寺報十六頁のご案内をご覧ください。



2月

【二月五日】
涅槃会
お釈迦様のお亡くなりになった日。涅槃図の掛け軸を掛けて法要をします。

【二月十八日】
幼稚園、新園舎落慶式

【二月二十五日〜二十七日】
第十回四国あるき遍路の旅

3月

【三月十二日】
彼岸会法要
あらためてご案内を郵送いたします。

【三月十八日〜二十四日】
春彼岸

4月

【四月八日】
降誕会
お釈迦様のお生まれになった日。「はなまつり」。

【五月三十日】
第二十三回花園会ゴルフ大会



7月

【七月八日】
初盆・新入檀信徒施餓鬼会
この日は、初盆のほとけさまと、圓福寺と新しくご縁のできたほとけさまの施餓鬼会をいたします。あらためてご案内を差し上げます。

【七月九日】
山門大施餓鬼会

【七月十日〜十六日】
七月盆の棚経
みなさまのお宅に棚経にお伺いします。

【七月二十二日〜二十三日】
圓福寺寺子屋「禅童会」
子どもたちの坐禅会です。坐禅だけでなく、楽しいゲームやいろいろな体験もできます。たくさんさんの参加を待っています。

8月

【八月十日〜十六日】
八月お盆の棚経
みなさまのお宅に棚経にお伺いします。

9月

【八月二十六日】
地藏盆
水子・人形・ペット供養
子どもたちの楽しいお盆の行事で、夜店やゲーム大会など盛り上がりがあります。地藏盆供養の法要も行います。



【九月二十日〜二十六日】
秋彼岸

【十月四日】
第二十四回花園会ゴルフ大会

【十月五日】
達磨忌
禅宗初祖「達磨大師」のご命日。

【十月二十二日】
涅槃精舎毎歳法要
永代供養の方々の法要と、授戒会。

【十一月二十三日〜二十六日】
第十一回四国あるき遍路の旅

【十二月八日】
成道会

お釈迦様がお悟りを開かれた日です。
【十二月三十一日】
年越しまいり
あまぎけ・年越しそば・福だるま・新春祈禱など、たくさんお参り下さい。



写経会

【前期期日】 【後期期日】

- 二月五日 七月二日
- 三月五日 八月六日
- 四月二日 九月三日
- 五月七日 十月一日
- 六月四日 十一月五日

【時間】

午後一時半～三時半

【会費】

一期五回で、花園会員二千円
会員外 五千円

【用意するもの】

小筆、硯、墨、半紙

【定員】

二十名

【申込】

お寺までご連絡ください。

【講師】

斉藤 加代子先生・住職



御詠歌

花園流ご詠歌の支部結成に向けて、練習をはじめていきます。ご興味のある方は、男女問わずお寺までお気軽にお問合せください。昨年からは、講師の先生をお招きし、わかりやすいご指導の下、初心者ばかりの男女混声で練習しています。見学歓迎、参加更に大歓迎です。

【期日】

毎月最終火曜日

【時間】

午後四時～六時

【会費】

月五百円

【講師】

山梨県 楽音寺住職
内藤 睦雄師

【定員】

たくさん
特に必要なし。

【申込】

問合せはお寺まで。



土曜会

この集まりは、圓福寺にご縁のある人が、お寺に集まり懇親・談笑する自由空間です。

【期日】

二月四日 春の俳句講座

三月(未定) 法話会

四月(未定) 市原(予定)

五月二十日 夏の俳句講座

六月(未定) 歩く会(予定)

【時間】

土曜日午後八時～

テーマイベントの後、懇親会

【会費】

花園会員 男性 二千円

女性 千円

花園会員外 男性 二千円

女性 千円

【申込】

お寺までご連絡ください。

平成十七年下半年お寺と和尚の日記抄

7月18日	湯島麟祥院施餓鬼・法話
20日	下谷了源院施餓鬼・法話
23日～24日	第十四回圓福寺子屋「禅童会」
28日	宗達禅士得度式 於本山
28日～29日	宗達禅士学徒研修会 於本山
8月1日	幼稚園、新園舎上棟式・もちまき
3日～5日	静岡島田高校、インターハイ参加のため宿泊
10～16日	八月盆棚経
14日	佐倉報恩寺施餓鬼
15日	佐倉宝樹院施餓鬼
16日	佐倉円心寺施餓鬼
17日	四街道清久寺施餓鬼
18日	取手長禅寺施餓鬼・法話
24日	社会保険センター、「写経」講座
31日	社会保険センター、「写経」講座
9月7日	社会保険センター、「写経」講座
20日	根岸円光寺秋彼岸法要・法話
10月1日	幼稚園、入園説明会
10日	幼稚園「運動会」
16日	市原、野外コンサートの夕べ
19日	社会保険センター、「写経」講座
20日	第二十二回花園会ゴルフ大会 於京葉CC
24日	涅槃精舎毎歳法要
11月1日	幼稚園新入園児願書受付

1日～2日	来年度の新入園児として、3才児56名・4才児25名を受付しました。
2日	東京教区第7部住職・役員研修 山梨方面
6日	社会保険センター、「写経」講座
16日	宗達禅士仏前結婚式
19日	社会保険センター、「写経」講座
25日～27日	土曜会「冬の俳句講座」 第九回四国あるき遍路の旅 (六十番～六十五番まで) 二十名参加
30日	社会保険センター、「写経」講座
12月4日	幼稚園「あさらい会」
7日	社会保険センター、「写経」講座
17日	歳末ボランテラ・花園会忘年会 幼稚園五十周年愛唱歌レコーディング

▽毎週木曜日午後六時～ **木曜坐禅会**
坐禅三十分二回、終わって茶話。無料。初心者歓迎。

▽毎月第三土曜日午後六時～ **土曜会**
お寺とあなたを結ぶ自由空間。会費二千元。

▽毎月最終火曜日午後四時～ **こ詠歌練習**

▽毎月第一日曜日午後一時半～三時半 **写経会**
「般若心経」の写経。見やすい大きさの字体です。
正座できない人のために、イスとテーブルも用意。
一期五回(事前申込制)。会費三千元。

平成十八年 年忌表

回数	亡くなった年
一周忌	平成十七年
三回忌	平成十六年
七回忌	平成十二年
十三回忌	平成六年
十七回忌	平成二年
二十三回忌	昭和五十九年
二十七回忌	昭和五十五年
三十三回忌	昭和四十九年
五十回忌	昭和三十二年

本堂法要後のお斎（お食事）に、書院をお使いください。法要後の移動もなるべく、お参りに来られた方にご不便をかけることなくすみます。お料理も、精進料理・懐石料理などご用意できます。お寺までお問合せください。

第十回 四国あるき遍路の旅

あるき遍路もいよいよ香川県に入ります。残す札所も二十三ヶ寺となりました。

募集人数 二十名
旅 程（あくまで予定です。）

二月二十五日（土）

飛行機で徳島へ。阿波池田まで電車。バスに乗換え雲辺寺口バス停下車。そこから徒歩にて六十六番雲辺寺まで登りの山道。山中の民宿泊。

二月二十六日（日）

観音寺周辺の六十七番から七十番札所巡拝。歩く距離約二十三キロ。いやだに温泉泊。

二月二十七日（月）

七十一番から七十五番善通寺に向かって歩き、琴平さんをお参りして高松から帰路。

参加費 五、六万円ぐらいを予定しています。

編集後記

冬らしい冬です。木枯らしもきつく、本堂の廊下が砂だらけになる日も多いです。気のせいかな、大掃除をお手伝いいただいた後は特に・・・。

年末は、幼稚園五十周年の仕事や引越し騒ぎで、いつもはボランティア大掃除のときに寺報の印刷が終わっていて、製本作業・封筒つめもボランティアしていたのですが、間に合いませんでした。

園舎建築は見事に間に合い、一月から新園舎での保育ができます。とにかく、在園している子が新しい園舎での生活を送れるようにという一念で、引越しも何とか間に合いました。

雪国のニュースを見ると、この年末に引越しというのは考えられないこと、関東は恵まれていると実感させられました。

引越し作業などの合間合間に、寺報も編集し、なんとか間に合いました。間に合う中身かどうかはわかりませんが、お読みいただくみなさんとの間を埋めてくれることを期待しています。



圓福寺新年会のつご案内

——毎年、和やかな楽しい新年会をしております。たくさんのみなさんのお越しをお待ちしております。



新年会参加資格

- 一、彼岸とお盆にしかお寺に来ない人。
- 一、お寺はかたくるしい所だと思っっている人。
- 一、仏教や禅に興味のある人。
- 一、お酒の好きな人。
- 一、おいしいものが好きな人。
- 一、圓福寺のお守りが欲しい人。
- 一、当日時間のある人。
- 一、今年一年の無事を願う人。
- 一、一回出席してみても楽しかった人。

右の参加資格のうち、一つでも該当する人は参加することができます。



日時 一月二十二日（日）

午前十一時 新春ご祈禱

正午 新年懇親会

会費 三千元

（ご祈禱料、お守り、お膳・飲み物代を含みます。）

会費は当日受け付けます。

申込 お申し込みはお寺までご連絡下さい。

圓福寺花園会

- 河西達雄
- 岡本正昭
- 福田和夫
- 平山 実
- 塩月高泰
- 菅野光夫
- 稲田陽英